



北海道大学



北海道大学大学院 木村研究室 中標津空港班

「ねむろゲートウェイ」としての 中標津空港の機能強化戦略

2018年 2月24日

今井 健吾

(公共政策大学院 修士1年)

渡辺 水樹

(国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻 修士1年)

中標津(空港)をとりまく状況

調査・ヒアリングを通して見えてきたこと

- 来訪者については、ビジネス客と団体客で既に需要が安定
- 空港にも町にも、観光(客)に力点をおく喫緊の必要性は存在せず



しかし……

- 確実に進む人口減少、それに伴うビジネス環境の変化
- 道内7空港民営化・LCC就航の対象外となった中標津空港
- マス・ツーリズムから個人旅行(FIT)への変化傾向
- 空港関係各者の観光への期待、秘めたる豊富なアイディア

空港の価値・機能・サービスは現状のままでよいのか？



中標津空港の可能性

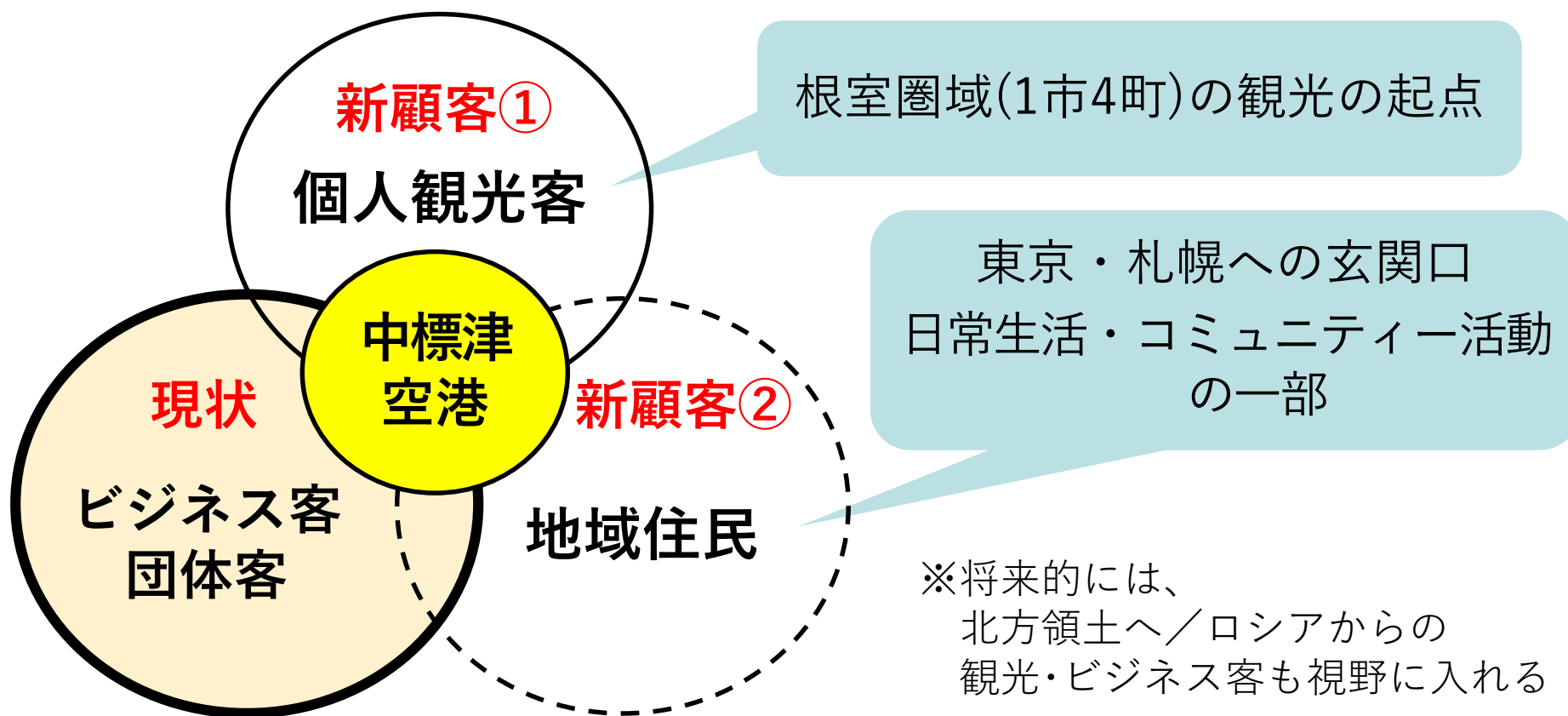
- 町や根室圏域の象徴的施設である中標津空港の価値向上は、**地域全体としての価値（ブランド）向上**に直結
- 中標津空港は、従来の需要（ビジネス・団体客）以外にも目線を広げることで、より広い顧客をサービス（収益）の対象にするとともに、**地域全体の活性化に貢献**できるのでは？



中標津(空港)をとりまく環境変化は、
「来訪者・居住者の双方に利便をもたらし選ばれる空港」
を地域主体で創りあげるチャンス！
……そのために充実すべき機能は？



中標津空港の可能性



それぞれの顧客に応じた機能充実が必要



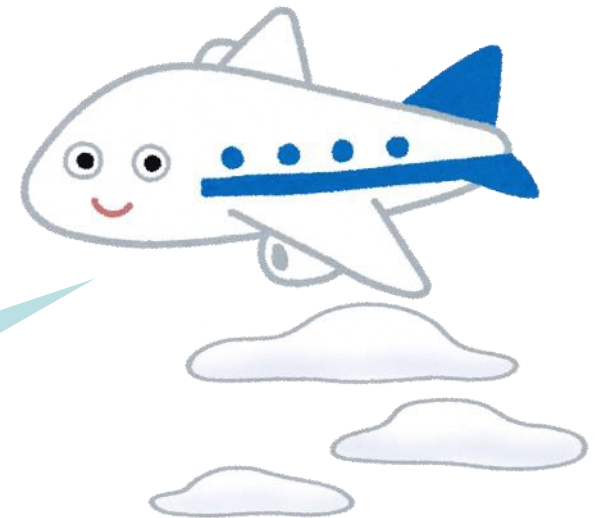
施策提言

「3つの機能強化と1つの組織づくり」

— 来訪者・居住者の双方に利便をもたらし選ばれる空港へ —

1. モビリティの充実と地域交通の将来像の連動
 2. 空港内ワンストップ窓口機能の拡充
 3. 空港の資源性・滞在性の向上
- + 空港を核とした連絡組織の設置

まずは、できることから……！



施策提言 | モビリティの充実と地域交通の将来像の連動

現状と課題

- 空港からの通年二次交通は、バス 1 路線かレンタカーのみ
（「ひがし北海道エクスプレスバス」は乗車期間・方法に制約）
→ 「住民用交通」と「観光客用交通」が切り分けられている？
多様な潜在ニーズの取り込みと持続性の両立が必要



提言内容

- ① 既存の**路線バス**の空港乗り入れ
- ② **自転車**を活用した近距離交通の充実



施策提言 | モビリティの充実と地域交通の将来像の連動

① 既存の路線バスの空港乗り入れ



- 町営バス(武佐線)の空港乗入れ・開陽台延伸
- 中距離バス(釧路～羅臼、標津～標茶)の空港乗り入れ

= 既存の資源を「活かして守る」
ちょっとした工夫

※将来的には、中標津空港～弟子屈・阿寒湖の路線新設も視野に入れる



施策提言 | モビリティの充実と地域交通の将来像の連動

② 自転車を活用した近距離交通の充実

- 空港内ワンストップ窓口の整備（後述）とともに、
空港からの近距離二次交通の新たな選択肢として
レンタサイクルという「楽しい移動」を提供

= モビリティ自体の資源化
各観光資源との有機的結合

※まずは空港をはじめ中標津町内から展開し、
将来的には根室圏域への拡大・統合により
周辺の空港・交通機関との結合を図る



施策提言 | モビリティの充実と地域交通の将来像の連動

個人観光客への多様なモビリティの提示
空港と各観光地との直結化

各観光資源の認知度向上
入込客数・路線バス利用者数の増加

地域公共交通の維持・充実

まちの賑わい・回遊性のさらなる向上
地域住民の生活利便向上・福祉への裨益



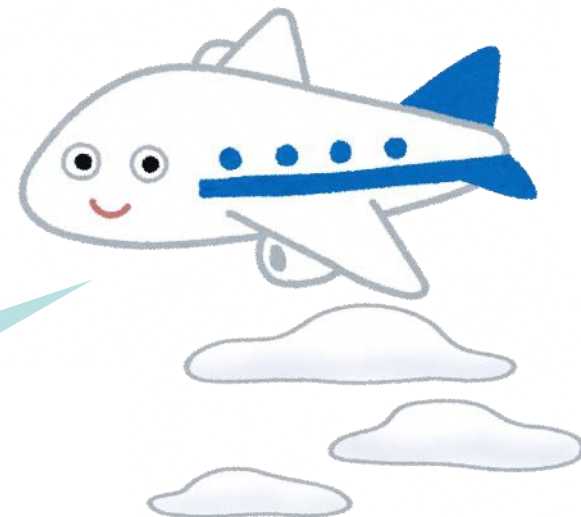
施策提言 | 空港内ワンストップ窓口機能の拡充

「3つの機能強化と1つの組織づくり」

— 来訪者・居住者の双方に利便をもたらし選ばれる空港へ —

1. モビリティの充実と地域交通の将来像の連動
 2. 空港内ワンストップ窓口機能の拡充
 3. 空港の資源性・滞在性の向上
- + 空港を核とした連絡組織の設置

「ねむろゲートウェイ」として
多様なニーズに対応する機能を！



施策提言 | 空港内ワンストップ窓口機能の拡充

提言内容：着地型旅行への対応力の強化

①「歩く観光」やレンタサイクルなどのアクティビティ対応

- 北根室ランチウェイ・レンタサイクルなどの情報提供
(コース案内、おすすめスポット、安全に関する情報など)
- アウトドア用品の貸出・販売、
更衣場所提供
- レンタサイクルの貸し出し
- 弁当・行動食の販売
- 荷物運搬・送迎の手配

etc.



施策提言 | 空港内ワンストップ窓口機能の拡充

提言内容：着地型旅行への対応力の強化

② 空港を起点とした着地型旅行商品の開発・販売

➤現状でも、3～4割の出発客が空港に80分以上滞在※

→**プラスアルファの滞在・消費**（ゆくゆくは前後泊）を狙う

➤空港周辺の独自性の高い観光資源をパッケージにして

「ここにしかない×きちんと稼げる」

着地型旅行商品とする

※国土交通省 平成27年度航空旅客動態調査(平日・休日)より



施策提言 | 空港内ワンストップ窓口機能の拡充

提言内容：着地型旅行への対応力の強化

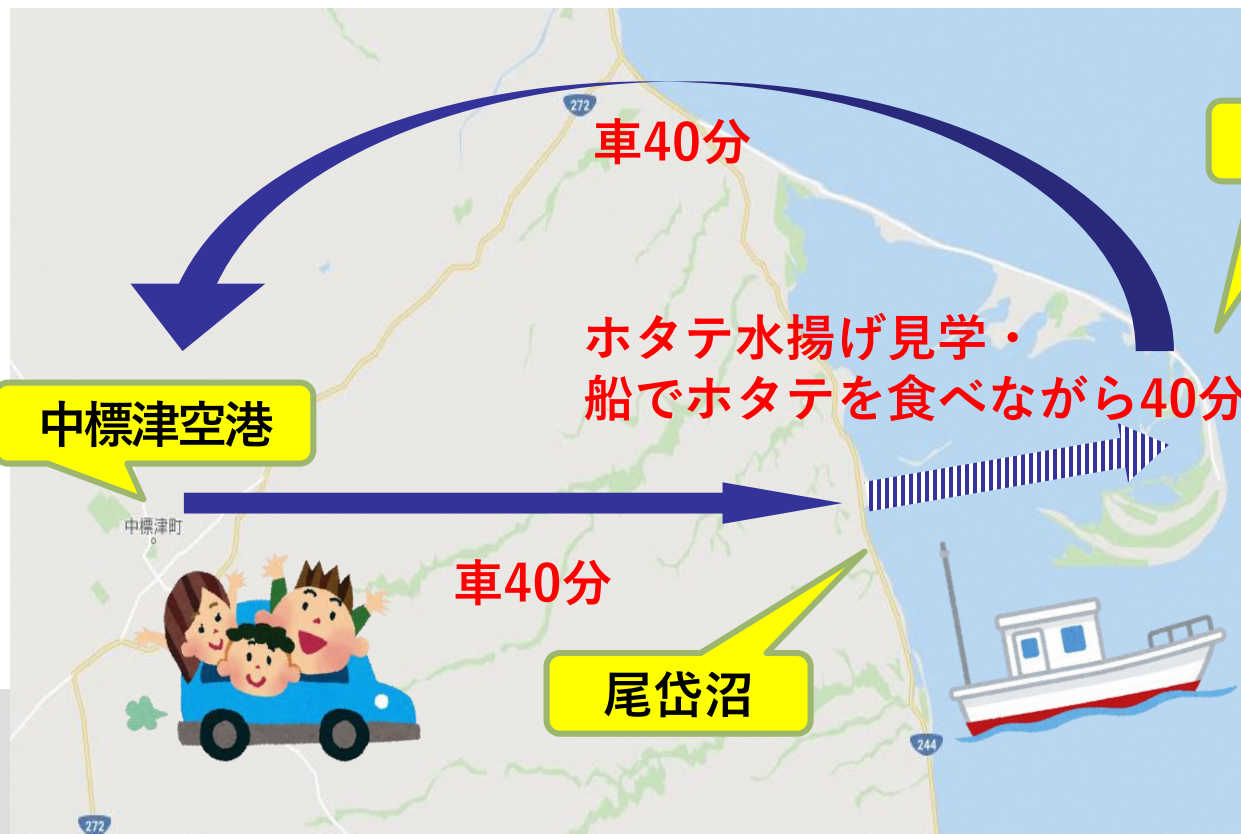
➤ 旅行商品例(1)：モビリティ&ランチウェイ×格子状防風林
(夏期・1～2時間想定)



施策提言 | 空港内ワンストップ窓口機能の拡充

提言内容：着地型旅行への対応力の強化

➤ 旅行商品例(2)：尾岱沼とれたてホタテ&ウラ野付クルーズ
(冬期・2～3時間想定)



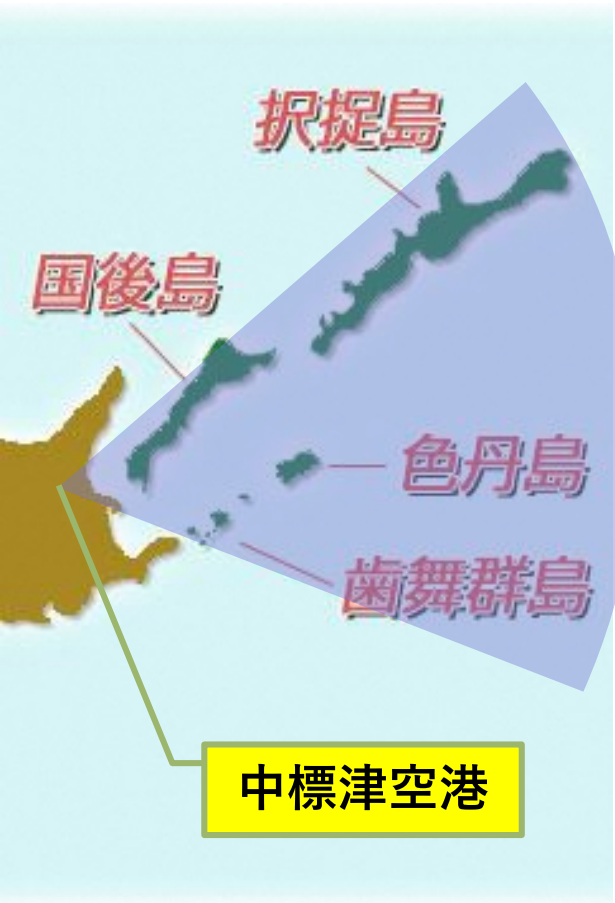
施策提言 | 空港内ワンストップ窓口機能の拡充

＋ 北方領土との交流拠点機能の整備

きたる将来に向けて……

- 展示・教育などの一元的な情報提供
- 観光目的のツアー手配（海路・空路）
- ロシアからの来訪者への窓口機能

etc.



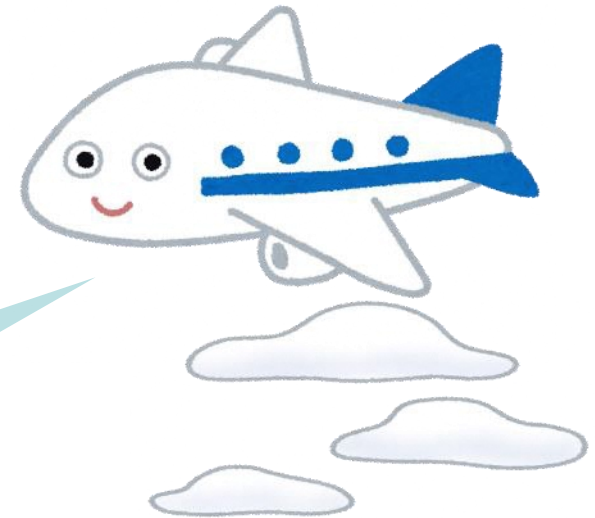
施策提言 | 空港の資源性・滞在性の向上

「3つの機能強化と1つの組織づくり」

— 来訪者・居住者の双方に利便をもたらし選ばれる空港へ —

1. モビリティの充実と地域交通の将来像の連動
 2. 空港内ワンストップ窓口機能の拡充
 3. 空港の資源性・滞在性の向上
- + 空港を核とした連絡組織の設置

空港そのものの魅力も高める！



施策提言 | 空港の資源性・滞在性の向上

現状と可能性

- 現状の空港の機能は「飛行機の発着場」にとどまる
→ワンストップ窓口機能の拡充とあわせて、空港そのものを
観光客・住民の双方が楽しんで利用できる施設に！



提言内容：空港内遊休地の活用

- ① **マルシェ**（ねむろ1市4町産直市）の開催
- ② 地域住民の憩い・**コミュニティ活動**のための場の提供
- ③ **展望カフェ**（屋上or元管制塔）や土産店での**オリジナル商品**の販売



施策提言 | フロアプラン(案)



施策提言 | フロアプラン(案)

3F

展望カフェ



2F

地域住民の憩いの場・
コミュニティ活動スペース

オリジナル商品の販売



マルシェの開催



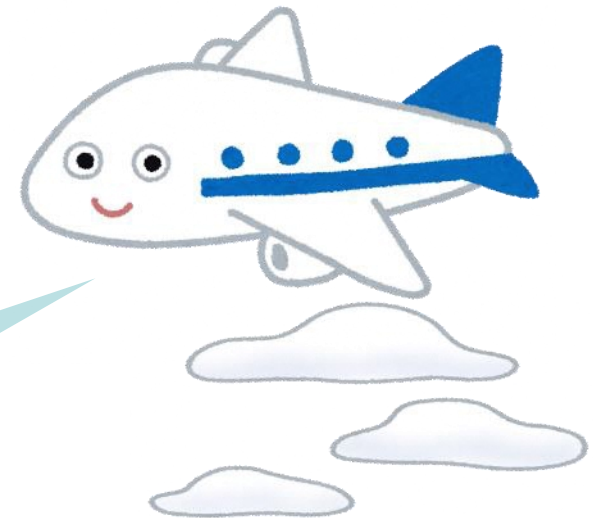
施策提言 | 空港を核とした連絡組織の設置

「3つの機能強化と1つの組織づくり」

— 来訪者・居住者の双方に利便をもたらし選ばれる空港へ —

1. モビリティの充実と地域交通の将来像の連動
 2. 空港内ワンストップ窓口機能の拡充
 3. 空港の資源性・滞在性の向上
- + 空港を核とした連絡組織の設置

「思いを形に」するために……！



施策提言 | 空港を核とした連絡組織の設置

現状と可能性

- 既存の組織・事業者は、従来の事業範囲やしがらみにとらわれ本来の顧客目線・顧客利益を実現しにくいのではないかな？
- アイデアマンはいても、アイデアを具現化するための手段が不足しているのではないかな？



他の主体との意思疎通・連携のチャネルを確保することで、アイデアを具現化し、顧客満足度を追求する環境を整える！



施策提言 | 空港を核とした連絡組織の設置

組織の意義と機能

- 従来の「中標津空港利用促進期成会」を発展させた「**ねむろ空港・地域活性化ネットワーク**」の結成
- より多くの関係者を巻き込み、より大きなミッションを共有

**「空港に関わるすべての関係者を包摂し、
空港を訪れるお客様の満足度を高め、
根室圏域の価値向上に貢献する」**

※二次交通の検討やマルシェの開催は、関係者が一堂に会する「きっかけづくり」としても意義を有する



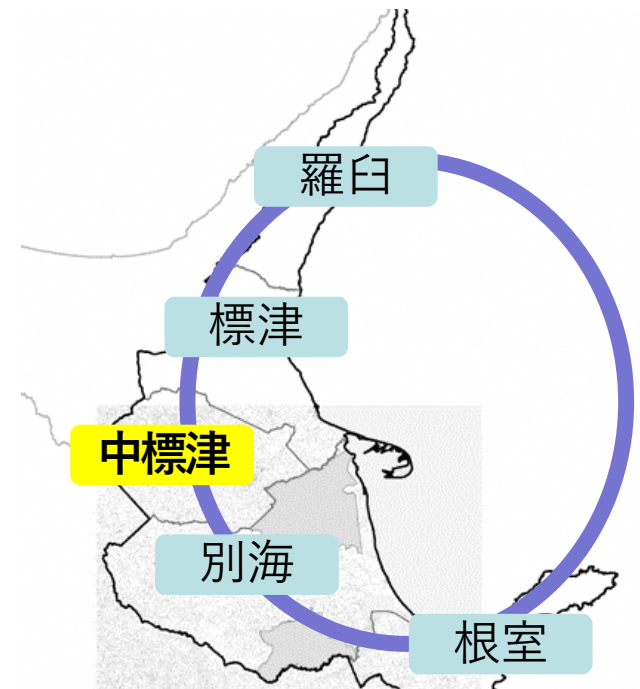
まとめ

「3つの機能強化と1つの組織づくり」

— 来訪者・居住者の双方に利便をもたらし選ばれる空港へ —

- ① モビリティの充実と地域交通の将来像の連動
 - ② 空港内ワンストップ窓口機能の拡充
 - ③ 空港の資源性・滞在性の向上
- + 空港を核とした連絡組織の設置

中標津・根室圏域の活性化への
「ゲートウェイ」を今こそ開こう！



ご清聴ありがとうございました！

